

1. 評価結果概要表

作成日平成20年12月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3770300329
法人名	医療法人社団五色会
事業所名	グループホームたまもよし
所在地	香川県坂出市加茂町194番地1 (電話)0877-48-3300

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成20年11月19日
評価決定日	平成20年12月22日

【情報提供票より】(20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)12年12月19日
ユニット数	1ユニット
利用定員数計	9人
職員数	9人
常勤	5人
非常勤	4人
常勤換算	6.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 2階建ての1階～2階部分
------	----------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	31,000円	その他の経費(月額)	9,000円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
または1日当たり 1,100円				

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	6名
要介護1	5名	要介護2		2名
要介護3	1名	要介護4		1名
要介護5	0名	要支援2		0名
年齢	平均 86.7歳	最低	80歳	最高 94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人五色台病院
---------	-----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

家庭で生活が困難になった認知症のお年寄りを、家庭的な雰囲気の中で進行を穏やかにすると共に、精神的に安定した生活が送れる目的で、食事、入浴、排泄などの日常生活および心身の機能訓練も取り入れている。安心と尊厳の生活が送れるよう利用者の立場に立ったサービスの提供ができるよう、介護計画を常に全職員で検討し利用者が必要としている適切なサービスを心がけている。また、母体が医療法人で近くには老人保健施設をも併設しており、急変時も24時間対応でき家族が安心できる。家庭的で落ち着いた雰囲気が感じられ、今後とも質の高いサービス提供に職員が一丸となり取り組むことを期待したい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で今回の自己評価にも取り組んだが、外部評価を受けることによりマンネリ化しないよう改善事項について、全職員が根拠を明確にし改善に取り組み、常にサービスの向上に努めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員が自己評価に取り組み問題点を提起しながら、事業所の質の改善を継続的に考えている。改善指摘事項については職員判断のもと利用者中心に考え対応している。職員との食事の準備、かたづけなど利用者に応じた役割分担や家族的関係の構築に期待したい。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2か月に1回、運営推進会議を開催し、メンバーは市職員、地域代表、家族代表、利用者代表、管理者、職員で構成している。議題は外部評価結果、自己評価の取り組み、家族会の報告、苦情、感染対策、緊急時の対策、行事などについて報告や検討及び情報収集をしている。情報から地域の文化祭や行事にも参加するなど、地域の一員として生活できるよう支援している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>利用者の生活は運営推進会議での報告や家族の訪問時に話しているが、毎月定期に利用料、ホーム便り「うぐいす」、近況報告などを家族に発送し不安の軽減につながっている。苦情は2か月に一回の運営推進会議でも協議したり、職員全員で検討している。意見・苦情は謙虚に受け止め、質の向上に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の文化祭・行事に参加や福祉ママなどのボランティアとも交流している。また、地域の保育園からも訪問が定例化し地域との連携が図れている。今後も、さらに積極的に地域の住民との活動・交流を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所は孤立することなく地域の一員として、地域の行事・文化祭などに参加するなど、地域に密着し利用者本位のサービスが提供できるよう事業所独自の理念に向け努力している。また、利用者、家族、訪問者にも分かり易く理念が食堂に掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の引継ぎ時には理念を唱和している。理念に基づいたケアが実践できているか、日々のミーティングなどで話し合い質の向上に心がけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事や、文化祭に参加したり、福祉ママなどボランティアの方との交流、地元の保育園の訪問が定例化している。また、介護相談員の訪問などがある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価は全職員で取り組み、外部評価の結果も全職員に伝え、話題に上がった指摘事項や改善点なども検討して前向きに取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回の会議で議題も、自己評価、外部評価の結果や取り組み姿勢、行事、緊急時対策、感染対策などについて報告や検討をしている。また、苦情なども話し合っている。家族会の開催については検討中である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議や行事などにも参加を呼びかけているが、それ以外での連携の機会は少ない。地域包括支援センターとは連絡を取っている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月月末に連絡シートによる詳しい報告をしている。また、月二回、担当者から電話で状況報告を丁寧に行っている。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議や訪問時の家族の意見、苦情などは運営推進会議やそれぞれの委員会で公表し、職員全体に周知し、サービスの向上に努力している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員は定着している。ホームはあえて異動はしていない。止むをえず離職があった場合でも、入居者が心配しないように職員が引き継ぎ、摩擦が少ないように配慮している。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月一回事業所内研修で「認知症」の勉強会を実施している。外部研修会では実践発表をするなど、職員は積極的に取り組んでいる。また、伝達講習をしたり職員の懇談会やカンファレンスも熱心に取り組んでいる。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>県のグループホーム協議会主催の研修会には交替で参加し、意見交換などで交流している。相互評価などでの交流もあり、質向上に努めている。個人的に交流がある職員からの情報もある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族に事前にホームを見学してもらい、納得の上でサービスを開始し徐々に馴染めるよう支援している。緊急入所の場合でも利用者・家族にとって過ごし易い環境が構築できるような配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の中で(ホーム内で)調理、洗濯、花壇など利用者のこれまでの経験を活かし、あくまで個人の意思を大切に、共に育む幸せを念頭に見守り姿勢で支援している。そんな中で利用者からは経験に基づいた助言をもらえる関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の思いやどのように暮らしたいかを利用者や家族などに協力を得て把握するよう努めている。思いや意向がはっきりしない時は、利用者をよく知る人からも面会時などに情報を得たり、利用者の日々の表情などに注意し思いなどを汲み取っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作業療法士、看護師、相談員、介護支援専門委員にも助言してもらい利用者、家族の意向も取り入れ、カンファレンスを通して実情に合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者、家族の要望を取り入れながらの介護経過記録をもとに3か月ごとの見直しや、実情の変化に対応した見直しをし新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて受診時に送迎支援をしている。また、美容院、買い物などの送迎の支援を柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の方が希望する医療機関が受診できるように配慮している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者、家族の意向を聞き、全職員が連携を取り、安心して過ごせるように対応している。終末期に関してもどのような医療機関を希望しているか、家族と日頃から話し合うようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の尊厳を重視し、自尊心を傷つけない、また、便りにも気をつかうなど日頃からプライバシーを損ねないように努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状況を把握し、その日の会話の中から要望をくみとり、可能な限り希望に沿う暮らしをサポートし、個々の生活スタイルを重視したケアに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑で採れた野菜などを食材として料理と一緒にしている。利用者の安全に注意しながら、もう少し利用者が後始末などできることへの参加が望ましい。また、一緒に食事を楽しむ工夫も期待したい。	○	一品から利用者が食事を作れるようにしたい。また、ホーム内で料理するのが理想であるが、職員と一緒に食事の準備、後片付けを進めていきたい。などを検討しているので工夫し、できることからの支援を期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴可能日の曜日は指定せず、毎日利用者のペースで入浴ができるようにしている。十分な見守り体制が必要なため、時間帯を10時～17時30分の間に行っている。	○	十分な見守り体制が必要なため入浴時間帯を決めているが、利用者の希望があれば対応できるよう工夫が望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの得意分野で活動できるよう配慮している。時間の可能な範囲で外出支援や、自分で洗濯ができる方には裏庭に出られる工夫をし外に干してもらったり、利用者の力を活かした役割を持ったり、楽しみにつながる支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候や入居者の気分に応じて買い物、ドライブ、ショッピングに出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入居者の希望で居室不在時には鍵をかけることがあるが、それ以外は掛けないように努めている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に併設の老健と合同で防火訓練を行い、避難訓練も実施している。また、災害時のマニュアルを整備している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立をたてて栄養バランスを考えている。また、水分摂取量については状況を把握し、必要があれば補給する時間をつくっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り季節感を感じる配慮や、共用空間や玄関にも生活感や季節感が採り入れられ居心地よい工夫をしている。また、亀を飼うなど癒される空間もある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	日頃から使い慣れた生活用品、装飾品を持ち込んだり、花や写真、貼り絵を飾り自由な生活を楽しむ工夫をしている。また、現在書道、カレンダーなどの作品が展示され居心地よい雰囲気である。		